

農業と環境 ダイズの発芽観察

食品科学科1年生の農業と環境では、実際に畑でダイズを栽培・管理し、豆腐に加工するといった、体験や経験を通じた授業を行います。コロナ休校終了後、学校が再開したら、学校にある畑にダイズを播種（種をまくこと）します。そこで、休校期間中に、皆さんに自分の家でダイズの発芽実験（種から芽を出す実験）を行ってまいります。方法・進め方をよく読んで、挑戦してみてください。

※ この実験は発芽させることを目的とするので、収穫まで行う必要はありません

〔用意するもの①～③〕

① ダイズ（品種：フクユタカ） 3粒、播種してください。

② 9cm ポリポット ③ 土

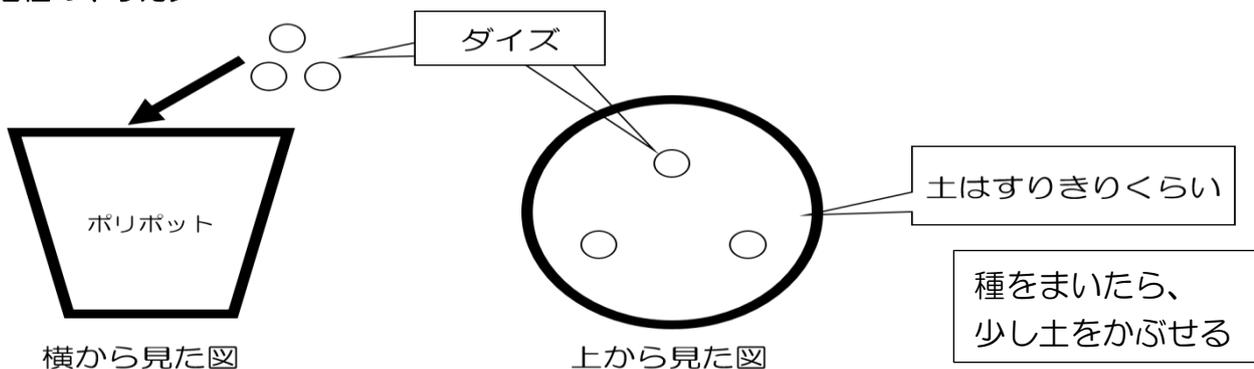
※ ダイズの種子とポリポットは学校からレターパックで送られてきたものを使用してください。

※ 土は、自分で用意してください。発芽実験に使用するので、無菌が望ましいですが、なければ、わざわざ購入しなくても家の周りがある土で構いません。

〔発芽させるために〕

- 発芽には、水・酸素・温度が重要です。この三つのうち一つでも欠けてしまったら、発芽しません。
- 水は土の表面が乾いたらあげてください。天気の良い日は頻繁にあげなければならないと思います。
- 酸素と温度は特に何もしなくても大丈夫です。

〔播種のやり方〕



〔観察方法〕

- 実験の経過を必ずノートにまとめる。播種した日から発芽するまでを毎日記録すること
- 写真をノートに貼り付けるなど工夫をすること。絵でも構いません。
- 芽が出て、ある程度成長の記録がとれたら終了して構いません。最後には、取り組んだ感想を書いてください。
- ノートは学校再開後に回収します。

発芽実験では、芽が出ないときもあります。焦らず、楽しく取り組んでください。